

平成23年12月4日
今週のベストショット



H23. 12. 4 共にプレーオフ進出を決めたリーグ最終戦の立役者

左上：三苦三球会のエース 吉留隆久投手、右上：奈多サンデーズのエース 江口宏之投手

左下：奈多サンデーズ4番 八島久徳選手、右下：三苦三球会4番 澤田剛選手

(写真：新町ウインズ 早田主大、雁ノ巣ライナーズ 三宅基裕)

青松園A

奈多フェニックス	2 0 1 0 0	3	勝投手：江口	HR：なし
奈多サンデーズ	4 1 0 2 0	7	負投手：今林勇太	HR：なし

一敗同士で迎えた最終戦。同じく一敗の三球会（同時刻で試合）を意識しながらの試合となった。奈多フェニックスの先発投手は、これまですべてのイニングを投げ抜いてきた池見投手ではなく今林勇太投手。対する奈多サンデーズはこれまで通り、江口宏之投手を先発に送り出した。奈多フェニックスは初回、制球の定まらない江口投手から無死満塁の機会を得ると、2つのワイルドピッチで2点を先制。さらに無死二・三塁であったが、2三振と投ゴロで後続を断たれた。対する奈多サンデーズも同じく制球が定まらない今林勇太投手から一死一・二塁の機会を得ると、4番八島久徳選手が同点となる三塁打。さらにワイルドピッチと押し出し四球で計4点を奪い早くも逆転に成功。さらに二回裏、二死から初回到同点打を放った八島選手がセンター前ヒットを放つとすかさず盗塁。キャッチャーからの送球が逸れる間に三塁まで進むと、ワイルドピッチから5点目を奪った。奈多フェニックスは三回到3本の安打を重ね1点を返すものの、四回裏にダメ押しの2点を奪われ、奈多サンデーズが優勝争いに残った。奈多フェニックスは、初回2点先制後の無死二・三塁から追加点を奪えなかったのが響いた。言い返せば江口投手の修正能力は見事。さらに2安打1盗塁の八島選手の活躍も見逃せない。（記事：新町ウインズ 早田主大）



一回裏、一塁から一気に同点のホームを踏む
奈多サンデーズ田中俊弘選手。



決め球のライズボールを捉え、同点タイムリー三塁打を
放った奈多サンデーズ4番八島久徳選手。



二回裏、相手バッテリーのミス突いて、判断よく
ホームを奪う奈多サンデーズ八島選手。



三回表、三連打で2点差に迫る奈多フェニックス
7番今林誠選手のタイムリーヒット。



センター前の難しいフライを捕る奈多フェニックス
西藤圭介遊撃手。



最終回代打で登場！奈多サンデーズ田中孝幹監督。
一塁を駆け抜けた直後に転倒し、笑いを誘う。



初回崩れるも、ピンチを抑えてからは立ち直り、勝利を手にした奈多サンデーズ江口宏之投手。



池見投手の代役としてマウンドに立った今林勇太投手だったが、制球が定まらず涙を吞んだ。



勝利の瞬間、喝采と共にハイタッチをする奈多サンデーズ首藤義史捕手。

奈多グラウンド

新町パイレーツ	0 0 3 0	3	負投手：吉田	HR：なし
三苦三球会	5 2 1 1	9	勝投手：吉留	HR：なし

三球会は一回裏、四球とエラーで先制し、さらに澤田剛選手の左前打で無死満塁とすると、永吉真也選手の内野安打で追加点を奪った。なお一死満塁から吉留隆久選手の中前タイムリー、原口剛選手の右前タイムリーによりこの回計5点を奪って早くも主導権を握った。続く二回裏にも一死三塁のチャンスに永吉選手の左線タイムリー二塁打、藤澤康隆選手の犠飛で2点を加えた。パイレーツは、三回表、桐島司選手が左前打で出塁すると、犠打とワイルドピッチで生還。さらに四球の走者を置いて白岩将義選手が左中間を抜くタイムリー三塁打、続く吉田崇浩選手の左前タイムリーでこの回3点を返した。その後三球会は三回、四回にも四死球・ワイルドピッチで1点ずつを加えて、じわじわと引き離し試合を決めた。打線においてはパイレーツ4安打、三球会5安打とほぼ互角であったが、パイレーツはエラーとワイルドピッチがことごとく失点に結びついてしまった。(記事：雁ノ巣ライナース 三宅基裕)



ワイルドピッチで進塁する三球会
1番小倉圭太選手。



一回裏5点の口火となった三球会4番
澤田剛選手の左前安打。



二回裏一死三塁で、三球会永吉真也選手の
左線タイムリー二塁打が飛び出す。



二回裏、三球会藤澤康隆選手の犠牲フライで
生還する永吉選手。



三回表一死二塁で、パイレーツ白岩将義選手が
左中間にタイムリー三塁打を放つ。



続く吉田崇浩選手がタイムリー左前安打を放ち、
白岩選手を迎え入れる。



最終戦を完投で飾り、10勝目（1敗）を手にした三球会吉留隆久投手。



立ち上がりの制球に苦しみ、初回の失点が大きかった新町パイレーツ吉田崇浩投手。

和白交流グラウンド

三苦フレンズ	0001100	2	負投手：井上	HR：なし
奈多クラブ	122102×	8	勝投手：今林瑠	HR：砂場

まだ真っ暗な朝6時、グラウンドに到着すると一塁ベース付近に大きな水たまりが……。水をかき出し、18分遅れの7時18分試合開始。

奈多クラブは一回裏、二死三塁から相手の失策にて1点を先制すると、二回裏には9番赤沢大輔選手・1番安部慶彦選手の連続タイムリーで2点、三回裏には5番砂場の中堅越本塁打で2点と、確実に点数を積み重ねていく。一方三苦フレンズは、序盤毎回走者を出すものの得点に結びつかない。しかし四回表、二死三塁で8番上田実選手の意表を突くセーフティーバントで1点を返すと、続く五回表には二死から4番寺山が右中間適時三塁打を放つ。

流れを引き寄せたい三苦フレンズだったが、六・七回は三者凡退で試合終了。確実に点を積み重ねた奈多クラブの勝利で終わった。イニング数は七回、時間は75分ジャストという最高の形での終わりでした。

最後に、グラウンドの整備にご協力いただきました両チームの皆様、ありがとうございました。

（記事：三友クラブ 山本健一）



三回裏、奈多クラブ5番打者砂場知行選手の2ランHR！！



五回表フレンズ4番寺山栄一選手が意地のタイムリー三塁打を放つ。



前の打席でHRを放った砂場選手は次の打席で強烈なサードライナーを放つもアウト。



OUT OR SAFE?



最終戦、一年を締めるバッテリーのやりとりの一コマ。

第24週編集後記

WSLの皆さん、こんにちは！

雨で順延が続き、やっと最終戦の3試合が行われました。

試合日程を組む三球会・山崎事務局長の苦勞は計り知れません。取り敢えずお疲れ様でした。

さて、肝心の試合の方はといいますと、青松園Aの奈多サンデーズ対奈多フェニックス戦は、寒さのためかサンデーズ江口、腰痛で投げられないフェニックス池見投手の代役・今林勇太両投手とも立ち上がりが絶不調。初回の攻防だけで、両投手合計10四球、30分を費やしました。2点を先制したフェニックスでしたが、その裏よもやの4失点を喫し、最終戦にして優勝を逃す結果に。今林勇太投手は、先の東区選手権で奈多サンデーズを完封していたのですが・・・。逆に今年のサンデーズは、春の大会で三球会に負けた分を和白リーグで取り返し、和白リーグでホーネットに負けた分を東区大会で取り返し、東区大会で今林勇太投手に負けた分を最終戦で取り返すという完全返済を達成！最終回打席に立ったサンデーズ田中孝幹監督は、バントを空振るわ、一塁を駆け抜け・・・たと思ったら転ぶわで、最近サンデーズの35歳を超えた者に押し寄せる年齢の波を体現しているかのようでした。青松園Bがグラウンド不良のため、急遽奈多グラウンドへ場所を移しての三苦三球会対新町パイレーツ戦は、初回二死一・二塁のチャンスを活かせなかったパイレーツに対し、2四球と相手ミスから先制した三球会が打者一順の猛攻で試合の主導権を握り、毎回得点で1敗を守りました。今回奈多グ

ラウンドは、普段のセンター側のネットをホームとして使用したため、ライトが異常に近いので、柵越えでも二塁打というルールだったそうです。左バッターの三球会主砲・澤田剛選手は、本塁打王に2本と迫っていたため、敢えて左打ちをしたとか。結果的には本塁打にはなりませんでしたが、パイレーツ田中新一三塁手兼和白リーグ会長の脇を鋭い打球で抜くタイムリーを放ちました。田中会長は「俺を狙うな！」と憤慨していたそうです。その澤田選手ですが、プレーオフまでは出場出来る見込み？です。また豪快なバッティングが見たいですね（プレーオフに限っては、私はあまり見たくありませんが）。パイレーツ4番・白岩将義選手の三塁打が初回に出ていれば違った展開だったかもしれませんね。

和白交流グラウンドの奈多クラブ対三苦フレンズ戦は、奈多クラブが1番安部慶彦選手の3打数3安打や5番砂場知行選手の2ランなどで効果的に得点を重ね勝利しました。

さあ、全ての日程を消化して、奈多サンデーズと三苦三球会が12勝1敗でプレーオフとなりました。初の納会当日決戦で今シーズンを締めます。心配される天気ですが、冷え込みは厳しいものの晴れの予報です。土曜日の雨が残らなければ良いのですが。

和白リーグ23年度優勝決定戦は、奈多グラウンドにて9時プレーボールです。

WSLの皆さんは会場に足を運んで、今シーズン最大の大一番をその目に焼き付けて下さい。

そして出場される選手の皆さんは、優勝決定戦に恥じない試合を繰り広げて下さい。

そのために土曜日は夜9時には寝て下さい！

執行部は朝8時に奈多グラウンド集合だそうです。

各チーム運営委員の方は、追って連絡があります。

では皆様、奈多グラウンドでお会いしましょう！

私も顔晴ります＼(^o^)/